

第2章 各教科等における学習評価

6 (1) 小学校 音楽

観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編には「第2の各学年の内容の「A表現」の（1）、（2）及び（3）並びに「B鑑賞」の（1）の指導については、適宜、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにすること。」とある。つまり、適宜、有機的な関連を図り、表現及び鑑賞の各活動が充実するよう、指導計画を工夫することが求められている。

また、指導計画の作成においては、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2（8）及び（9）に示すものの中から、各領域や分野の学習に共通する「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」、それらに関わる音符、休符、記号や用語を要とし、適宜、表現領域と鑑賞領域との関連や、歌唱、器楽、音楽づくりの各分野間の関連を図った題材を構成していくことが大切である。

このように、音楽は内容のまとまりがそのまま単元に移行することは少なく、どのような領域や分野と組合せて題材を構想していくのか考えていくことが重要な教科である。観点の趣旨を踏まえながら題材における評価規準を作成することが重要である。

ここでは、

題材名	「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」
	第4学年 「A表現・歌唱」「A表現・器楽」
教材群	「とんび」（葛原しげる作詞／梁田貞作曲）「エーデルワイス」（R.ロジャース作曲）

について、評価例を示す。

① 題材の目標を作成する。

学習指導要領に示された教科の目標及び学年の目標を踏まえ、題材の目標を次のように設定する。

【小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕】

- (1) 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を考えて表現に対する思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさなどを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。
- (3) 進んで音楽に関わり、協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るくするおいのあるものにしようとする態度を養う。

題材の目標

- (1) 「とんび」、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造などとの関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。
- (2) 「とんび」、「エーデルワイス」の旋律、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。
- (3) 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、日本のうたやリコーダーに親しむ。

このように本題材において、扱う2教材を基に、(1)「知識・技能」の習得(2)「思考力、判断力、表現力等」の育成(3)「学びに向かう力、人間性等の涵養」について、どのような力を身に付け

るのかを具体的にする。また、次のように一文で表すことも考えられる。

「とんび」「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図をもって歌ったり演奏したりし、日本のうたやリコーダーに親しむ。

② 題材の評価規準を作成する

題材の評価規準を、次の(a)～(c)の手順で作成する。

(a) 当該学年の評価の観点と趣旨を確認する。

【第3学年及び第4学年の評価の観点とその趣旨】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。 ・ 表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	<p>音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。</p>	<p>音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(b) 本題材で扱う学習指導要領の内容を明確にする。

【学習指導要領 第3学年及び第4学年 A表現】

- (1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。
 - ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。
 - (イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能
- (2) 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。
 - イ 次の(ア)及び(イ)について気付くこと。
 - (ア)曲想と音楽の構造との関わり
 - (イ)楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり
 - ウ 思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)から(イ)までの技能を身に付けること。
 - (イ)音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能
- [共通事項]
- (1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。
- (本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：旋律、フレーズ、反復、変化)

このように、本題材をどのような指導事項(ア 「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力 イ 「知識」に関する資質・能力 ウ 「技能」に関する資質・能力 [共通事項])の組み合わせで構想するのかを考える。

(c) 本題材の評価規準を設定する。

題材の評価規準作成のポイントは以下のとおりである。

(1) 知識・技能

- ・知識については、「評価の観点の趣旨」と同様に、事項イの文末を「～している」と変更することで作成することができる。なお、文頭部分に曲名等を挿入することも考えられる。
- ・技能については、技能を身に付けて表現している状態を評価することになるため、「評価の観点の趣旨」の文末では「歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている」と示している。具体的には「表したい音楽表現をするために必要な技能」の部分をその題材の分野や学習内容に応じた事項ウに置き換え評価規準を設定する。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。
- ・事項にある「次の(ア)及び(イ)の」や「次の(ア)から(ウ)までの」の部分には、(ア)から(ウ)までの事項のうち、題材で扱う事項を一つ以上挿入することで設定することができる。なお、複数の事項を示しているものについては、当該の題材の目標や学習内容等に応じて、複数の事項の内容を設定することが考えられる。また、評価場面や評価方法が同じである場合、一文で表記することも考えられる。

(2) 思考・判断・表現

- ・「思考・判断・表現」については、「評価の観点の趣旨」において、①〔共通事項〕アに関すること、②表現領域に関すること、③鑑賞領域に関することを示している。評価規準においても同様に、表現領域では①〔共通事項〕ア及び②表現領域に関する内容、鑑賞領域では①〔共通事項〕ア及び③鑑賞領域に関する内容の事項に応じて、それぞれの具体的内容に置き換え、文末を「～している」と変更することで作成することができる。
- ・①〔共通事項〕アに関することについては、音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など、「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」2(8)に示した「ア 音楽を特徴付けている要素」や「イ 音楽の仕組み」から、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる、主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換える。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- ・「評価の観点の趣旨」の「表現及び鑑賞」の部分は、扱う領域や分野に応じて「歌唱」「器楽」「音楽づくり」「鑑賞」より選択して置き換える。なお、「学習活動」とは、その題材における「知識及び技能」の習得や「思考力、判断力、表現力等」の育成に係る学習活動全体を指している。
- ・文頭部分には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄に関して記載することが考えられる。ただし、興味・関心をもっているかということのみを評価するものではないことに留意が必要である。

(a) (b) と作成のポイントを基に、本題材の評価規準を次のように設定した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①[技] 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸(*1)に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)	①[思] 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)	①[態] 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱・器楽)
②[知] 曲想と音楽の構造(*1)との関わりについて気付いている。(歌唱・器楽)	②[思] 旋律、フレーズ、反復、変化を聴	
③[知技] リコーダーの音色や響きと		

演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。(器楽)	き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	
---	--	--

- ・(*1)のように事項に示している内容のうち、本題材の学習で扱わない部分については削除することも考えられる。

③ 指導と評価の計画を作成する

<>内は評価方法

次	時間	◎ねらい ○学習内容	知識 技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。					
第 一 次	第1時	○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。 ○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。			
	第2時	○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	①技 <聴取>	思①<記述・ 発言・聴取>	
◎「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。					
第 二 次	第3時	○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 ○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。			
	第4時	○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。	②知 <記述・発言>		
	第5時	○前時までの学習を基に、グループごとに、「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 ○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。	③知技 <聴取・発言・ 記述>	思②<記述・ 発言・聴取>	態①<観察・ 記述・聴取>

- * 1 評価計画の作成に当たり、評価の観点の趣旨を踏まえ、評価の内容について関連性を考慮することも大切であり、場合によっては、一体的に評価することも考えられる。ただし、統合した形で一体的に評価規準を設定する場合は、評価の場面や方法等について慎重に検討することが不可欠である。
- * 2 丸数字は全員の学習状況を記録に残す場面を表している。また、矢印は学習状況について継続的に見取るようにしたことを意味している。丸数字で評価規準が設定されていない単位時間においても、教師の指導の改善や子供の学習改善に生かすために、子供の学習状況を確認することは重要である。
- * 3 ①[技]は[思]①の後に、③[知技]は[思]②の後にそれぞれ置いている。これは技能に関する事項ウにおける「思いや意図に合った表現をするために必要な技能」という位置付けに基づき、「思考力、判断力、表現力等」と関連付けられた技能を見取るため、ここに位置付けている。
- * 4 歌唱の活動と器楽の活動において習得を目指す知識について、その題材の中で共通する内容として位置付けた場合、②[知]のように一体のものとして評価規準を設定することが考えられる。
- * 5 [態]については、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫したり、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付けたりする学習に、粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて、第1時から第5時まで継続的に見取るようにした例である。

④ 実際の指導及び評価

本事例において、「思考・判断・表現」の観点について見取りのポイントと改善のための働きかけについて一つ例を示す。

評価規準	【評価場面】〈評価方法〉〔見取りのポイントと改善のための働きかけ〕
<p>[思]① 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>【第1時の後半から第2時】継続的に学習過程を見取るようにした。 〈楽譜を記したワークシートや楽譜に記述した内容、発言の内容、演奏の聴取〉 〔見取りのポイントと改善のための働きかけ〕 「とんび」の第1、第2、第4フレーズの上下する旋律の動きが、とんびがゆったりと飛ぶ様子をイメージさせるなど、音楽のよさや面白さを生み出している音楽を形づくっている要素の働きに着目して考えたり、第3フレーズの「ピンヨロ」の部分では、旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫し、とんびが鳴きながら近付いてきたり去っていったりする様子を表そうとするなど、表現したい思いや意図をもったりしているかななどを評価する。必要に応じて適宜、第1時の前半で学習した歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を踏まえて、どのように歌うか、実際に歌い試しながら工夫するように助言する。</p>

⑤ 観点ごとに評価を総括する

本事例では、観点ごとに1～3の評価規準を設定している。それらを総括する場合、次のような考えがある。

ア 同等に扱って総括する

イ 重点を置いて総括する

「主体的に学習に取り組む態度」については、題材における学習内容に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりしているかどうかについて継続的に見取るようにし、学習状況を記録に残す場面は題材の最後のみで行うように設定したため、総括は不要となる。

<参考資料>

【案】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（国立教育政策研究所）